

令和3年度 ケアハウスふるさと 事業計画

【運営方針】

「少しでも 長く元気で 自分らしい生活を」

【基本方針】

介護の原点に戻り、ふるさとの理念に基づいたサービスの質の向上に取り組む
安心して生活できる施設、安心して働ける職場を目標に、より良い人間関係の構築に努める

【年間目標】

- ① 安心・安全な介護サービスの提供
- ② 感染症対策の徹底
- ③ 家族・医療・介護の連携
- ④ 離職率の低下
- ⑤ 目標稼働率 97.5%

【実践計画】

① 安心で安全な介護サービスの提供

- ・ ナースコールに対する第一声を大切にし、ナースコールの対応から入居者様が安心感を得る事ができる対応を行う
- ・ 接遇マナーの基本、「思いやり」や「おもてなし」の心を忘れず、相手にとって「安心して接することができる人」「信頼できる人」になれるよう、コミュニケーション能力とホスピタリティ精神を養う
- ・ 勤務時、どのような状況下においても「笑顔」「挨拶」「丁寧な言葉遣い」「話を聞く姿勢」を忘れずふるさとの職員である自覚と責任をもって行動する
- ・ 毎朝の申し送りの際に、曜日ごとに決めた接遇マナー目標を唱和する

② 感染症対策の徹底

- ・ 施設共用部・居室内の温湿度を5回/日計測し環境保全を行い、2回/日定期的に居室内を消毒する
- ・ 基本の手洗い、標準予防策等の感染症予防の研修を実施
- ・ 発生した場合、被害を最小限に留める為の職員の動線や必要物品を会議の場で再検討する。

③ 家族・医療・介護の連携

- ・ 2回/週行っているオンライン面会を継続し、現在利用されていないご家族様に対しても積極的に利用を勧め、面会が出来ない状況でも入居者様が不安にならないよう対応する。
- ・ 入所時から看取りまで一貫した医療ケアを受ける事ができるよう、近医との連携を

図り、必要に応じて主治医の変更を行う。

- ・令和3年度改定で新設される科学的介護推進体制加算の取得に向け、口腔ケア・栄養ケア担当者との情報交換を密に行いPDCAサイクルに則したケアを目指す。

④ 離職率の低下

- ・入職後、試用期間の間に管理職との面談を1回/月行い、職員の悩みや疑問をその場で解決できる機会を持つ。
- ・施設長面談(年2回)
- ・介護技術について技術標準を定め、介護技術の「見える化」を行い、指導者の指導内容の標準化を行う。
- ・新人職員の適切なOJTを実施し離職率を減らす
今後、外国人、高齢者、経験者、未経験者といった多様な人材を活用していくために、個々の状況や能力に合わせて、長所に着目した指導をしていく
入職から1週間、2週間、1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月と最低5回は、部署長及び介護主任が面談を実施する

⑤ 目標稼働率97.5%

- ・入院者の減少及び入院期間の短縮
体調不良者の早期発見、早期治療により入院者を減らす
入院中は病院訪問、家族連絡、進捗管理を行い、治療終了後は一日でも早い退院に向け調整する
- ・完全空床期間の短縮
待機者への健康診断の連絡や、業者への居室改修工事の依頼は早めに行い、タイムロスをなくし、引越等の手配を含め、家族のフォローを行い、スムーズな入居に繋げる
- ・待機者管理
入居申込者へは定期的な連絡を行い、タイムリーに状況を把握しておく
待機者確保の為、病院、老人保健施設、サ高住とのネットワークを構築していく
神戸市内に限らず、広範囲に営業活動を展開していく